

令和7年度 協働のまちづくりチャレンジ事業申請書

※提出された申請書の内容は、個人情報を除いて公開する場合がありますので、ご了承ください。

※太枠の中をご記入ください。

申請部門	スタート部門
	※プルダウンから選んでください

【1】事前相談

(1) 市民活動サポートセンターコーディネーターへの事前相談 ※スタート部門は必須、一般・団体連携部門は任意です

コーディネーター名	中田
事前相談日	2025年4月18日
	※複数回相談した場合、全てご記入ください

(2) 協働を希望する課への事前相談 ※スタート部門は任意、一般・団体連携部門は必須です

協働希望課名	
事前相談日	
	※複数回相談した場合、全てご記入ください

【2】応募要件

該当する部門の応募要件の太枠内に、○を記載してください。(プルダウンになっています)

団体要件		
該当の部門	要件内容	
全部門共通	5名以上で構成し、主に金沢市内で活動し、今後も活動を予定している団体である。	○
スタート部門	事業内容にかかわらず、この部門で過去に採択された団体ではない。	○
スタート部門	法人格を取得しておらず、かつ設立から3年以内の団体である。	○
一般部門、団体連携部門	運営に関する規約等があり、1年以上の活動実績を持っている。	
一般部門	事業内容にかかわらず、この部門で過去3回以上採択された団体ではない。	
団体連携部門	事業内容にかかわらず、この部門で過去2回以上採択された団体ではない。	
団体連携部門	異なる複数の団体による連携提案である。(申請者・団体概要をそれぞれ記入要)	
事業要件		
該当の部門	要件内容	
全部門共通	営利活動、宗教・政治活動を目的としていない。	○
全部門共通	申請事業について、国、地方公共団体又はこれらに準ずる団体から助成を受けていない。	○
全部門共通	既に地域や団体が実施している事業そのものではない。	○
全部門共通	翌年3月31日までに事業を完了できる。	○
一般部門、団体連携部門	昨年度採用されていない事業である。(昨年度採択されている事業で、新しい工夫・発展性が見受けられる場合は除く)	

設立年月日（西暦）	2025 年 2 月 1 日 （設立 0 年 2か月目）
団体概要	※記入しきれない場合、別に資料（団体パンフレット、HP等）を併せて提出してください。
（1）設立の目的	「かなざわサバイ部」は、“すべてのこどもの健やかな成長を支援する”という人づくりの理念と、DX・GXの推進を通じた文化・産業の融合、地域のデジタル人材の育成という仕事づくりの視点をあわせ持った、新しい市民参加型のプロジェクトです。
※設立のきっかけや現在に至る経緯等	防災・防犯・サバイバルといった実践的テーマを、デジタルゲームとして楽しみながら学ぶことで、「自分の命を守る力」だけでなく、「社会を変える力が自分にもある」と実感できるような学びを提供します。このプロジェクトには、プログラマー、教育関係者などの多職種の専門家が集結。単なる教育プログラムではなく、“子どもと地域の未来を共に創る共創型活動”として構想しています。
（2）今後の目指していききたいこと	私たち「かなざわサバイ部」が目指すのは、ゲームを入り口にした“学びの変革”です。教育関係者やフリースクールの運営陣と連携しながら、子どもたちが自分たちのまちなみや未来にワクワクできるような体験を広げていきます。
※団体ビジョンや団体ミッション等、将来達成したい理想の状態や目標、団体が果たすべき存在意義等	プログラマーとの協働によって、子どもたち自身が「アプリは自分たちでも作れるんだ」と感じられることも大切な成果のひとつです。こうした体験を通じて、自分の可能性を信じ、他者と協力しながら課題を解決する力を育みます。 特に私たちは、「0から1を生み出す楽しさ」を知ってもらうことを重視しています。既存のものを与えられるのではなく、自分たちの手でアイデアをカタチにするという経験は、創造性と主体性を育てる原動力となります。 「やってみたい」が「できた！」に変わる瞬間を、子どもたち自身が体感し、社会の中で自分の役割や可能性を見出していく—そのための土壌をつくるのが、私たちの大きな目標です。 今後は、学校や地域に「サバイ部」のような小さな共創拠点が生まれ、子どもたちが自ら社会と関わる第一歩を踏み出せるよう、活動を広げていきたいと考えています。
活動概要	以下に記入してください。
（1）主な活動履歴	本団体は、教育・IT・不登校対策・広報の分野で活躍する専門家が、想いをひとつにして結成された創造型ユニットです。「こんな未来を子どもたちと一緒にしてくれたら」—そんな願いから、ゲームという子どもに身近な世界を入りに、リアルを楽しむ力を育むプロジェクトが始まりました。 異なる得意分野を持つ私たちですが、今回、初めて手を組み、ワクワクしながら社会の小さな“新しい入り口”を開こうとしています。日頃からコミュニケーションを取るメンバーで大きな社会課題解決に取り組みます。
（2）得意分野・活躍できること	本団体は、子どもたちに親和性の高い「ゲーム」を活用し、学び直し・社会接続への第一歩を支援します。とくに不登校児に多い、ゲーム依存によるドーパミン過多・セロトニン低下・幸福感喪失といった傾向（厚生省・脳科学研究に基づく）を、ゲームそのものを教育ツールへと転換する試みにより改善へ導きます。教育・IT・不登校対策の連携による対応が可能です。
※専門的知見、連携先、アピールポイント等	出典（専門的知見）： 厚生労働省「依存症対策の現状と課題（令和4年）」 森昭雄教授（日本大学）の研究「ゲーム脳に関する脳波計測実験」 文部科学省「不登校児童生徒への支援の在り方に関する調査研究」
HP,SNSのURL	

※団体連携部門の場合、当該「【3】申請者・団体概要」は連携先団体の分も必要であるため、シートをコピーし、シート名を「団体連携先」として記載願います。その場合、記載が必要な部分は「【3】申請者・団体概要」部分のみです。

【4】企画内容

提案事業のテーマ	金沢市未来共創計画の5つの基本方針の中から、該当するテーマを選んでください。 【参考】未来共創計画の一覧はこちら↓ 未来共創計画 基本方針一覧
テーマ（ブルダウン）	小テーマ（左セルでテーマを選ぶと、選択肢をブルダウンから選ぶことができます）
基本方針4_仕事づくり	(2) あらゆる世代の多様な人材の活躍と働き方の推進
※テーマが複数に渡る場合、副次的なテーマを以下から選択してください。	
基本方針3_人づくり	(2) すべての子どもの可能性を引き出し生きる力を育む教育の実践
基本方針3_人づくり	(4) 学びの文化の形成と情操教育の推進
協働を希望する課名	危機管理課、学校指導課、産業政策課
企画のタイトル	かなざわサバイ部
事業の概要	※①～③の流れに沿って、具体的に記載してください。
①現状の地域課題 (金沢市における困りごと、改善したい点、従来認識されていなかった課題 等)	<p>1. 市民の防災教育、意識、準備の遅れ 近年の自然災害の頻発や能登半島地震の影響により、防災への備えが求められています。よって、市民の防災意識の向上と具体的な準備が急務となっています。市が実施したアンケート調査では、防災意識の現状把握と分析が行われ、今後の防災知識の普及啓発に活用されています。また、令和6年能登半島地震の教訓を踏まえ、避難所運営の改善や情報発信力の強化など、市民への防災啓発の充実が計画されています。</p> <p>このような計画が進められている背景には未だ防災対策が不十分な現状があるためだと推察できる。</p> <p>2. 不登校児童の増加とスマートフォン依存の増加 全国的に不登校児童生徒数は増加傾向にあり、金沢市でも同様の状況が見られます。令和3年度のデータでは、市内の不登校児童生徒数は小中学校合わせて964人に上り、過去最高を記録しています。さらに、スマートフォンの所持率も年々増加しており、小学生で約50%、中学生で70%以上が所持しているとの調査結果があります。これに伴い、スマートフォン依存による生活リズムの乱れや学業への影響が懸念されています。厚生労働省の調査では、ゲーム依存が若者に多く認められ、その数は増加傾向にあると報告されています。</p> <p>ゲームが楽しくて仕方がない。そんなことも多い現状があるならば、それを利用して学ぶ楽しさへの転換が課題としてあるのではないかと考えられる。</p>
②ねらい・コンセプト (①で記載した課題解決のために、 ・アプローチする方向性 ・工夫する点 ・協働する意義 ・市民が共感できる点 等)	<p>金沢市における不登校児童の増加やスマートフォン依存の課題に対し、私たちは「防災ゲーム」を活用した新たなアプローチを提案します。このゲームは、子どもたちに親しみのあるデジタル環境を舞台に、防災の知識や行動を学びながら、自然にリアルな社会とのつながりを取り戻すことを目的としています。</p> <p>特に注目すべきは、防災を“家族とのコミュニケーションツール”として活用する点です。ゲームを通して家庭内で防災について話し合ったり、一緒に備えを進めることで、親子の対話が生まれ、不登校や孤立の解消にもつながる可能性があります。防災という「社会的に意義のあるテーマ」を軸に、楽しみながら家族の絆を深め、リアルワールドに対する興味と安心感を育む新しい試みです。</p>

<p>③実施内容案</p> <p>年間事業スケジュール案について、必要があれば使用してください↓</p> <p>事業スケジュールひな形</p>	<p>実施予定時期：9月以降</p> <p>対象者（ターゲット）： ①フリースクールに通う子ども達及び保護者、②公開にして子ども達を一般募集。</p> <p>予定場所：①フリースクール ②ネット環境が整う会議室など。</p> <p>実施内容：ゲームを通じて学ぶ楽しさを再認識していただく。生きる知識。通常カリキュラムで学べないことを伝える。</p> <p>広報・周知の方法：SNSおよび、チラシ配布。チラシ掲示。</p> <p>年間事業スケジュール案：別シートに作成。</p> <p>年間スケジュール案</p> <table border="1" data-bbox="435 645 1458 952"> <thead> <tr> <th>事業内容・準備</th> <th>6月</th> <th>7月</th> <th>8月</th> <th>9月</th> <th>10月</th> <th>11月</th> <th>12月</th> <th>1月</th> <th>2月</th> <th>3月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ソフト開発</td> <td>開発</td> <td>試作品テスト</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>フリースクールでの開催</td> <td></td> <td></td> <td>交渉</td> <td>開催案内</td> <td>開催</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>一般募集開催</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>打合せ</td> <td>開催案内</td> <td>開催案内</td> <td>開催</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>検証結果の議論</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>議論・まとめ</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	事業内容・準備	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	ソフト開発	開発	試作品テスト									フリースクールでの開催			交渉	開催案内	開催						一般募集開催				打合せ	開催案内	開催案内	開催				検証結果の議論								議論・まとめ		
事業内容・準備	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月																																														
ソフト開発	開発	試作品テスト																																																						
フリースクールでの開催			交渉	開催案内	開催																																																			
一般募集開催				打合せ	開催案内	開催案内	開催																																																	
検証結果の議論								議論・まとめ																																																
<p>事業効果</p>	<p>※金沢市における効果や、事業の対象者が具体的にどうなるか等、記載してください。</p>																																																							
<p>期待できる事業効果</p> <p>(広く市民が共感できるか、他団体や行政・企業とのつながり、協働の効果がみえるか 等)</p>	<p>市にとって</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災意識向上につながるツールの実証実験ができる。自助の推進 ・地域開催ができるようになれば、共助の強化にも繋がる。 <p>不登校児童にとって</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不登校児童がリアルワールドの楽しさを改めて感じて頂く。 ・家庭内での会話の軸が作れる。 <p>一般開催によって、子ども達にとって</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゲームを自分達で作れる。ということの楽しみを知ってもらう。可能性を広げる。 ・デジタルに強いdx人材の育成、金沢市の進めるIT部活への興味関心の増進。 																																																							
<p>その他 特記事項</p> <p>(今回応募した動機・熱意、本事業を通して何を得たいか 等)</p>	<p>富樫森本断層のリスクがある中で備えが不十分と感じます。</p> <p>準備したとあって、家族に全くあっていない避難袋を用意しているケースなど様々。</p> <p>ここで一度しっかりと検討頂くための場づくりが必要だと感じています。</p> <p>金沢市が、DX推進を進めるのであれば、その流れに合わせて進めたい。</p> <p>また、不登校問題などの大きな課題にも取り組みたい。</p> <p>そんな想いから、今回の企画を組んでいます。</p> <p>何よりも、みんながイキイキして時代の最先端を歩む金沢市にしたいから、今回提案致します。</p>																																																							